



総合救急部 救急科：専門医教育プログラム

- ☑ **集中治療専門医**まで取得可能
- ☑ **基幹プログラム先の選択**が可能。
他では経験することができない体験ができます。
- ☑ 救急搬送数、**年間11,903台**、うち重症患者2389件
尾張西部医療圏約60万人を担う重要病院。一宮市内搬送比率 約46% 救急車応需率99.8%
- ☑ **災害拠点病院から3次救急取得**を目指す環境で研修できる

11903台

 / 2023年救急搬送台数（尾張西部 **1**位）

年間重篤患者数

重症外傷

656件

心臓血管疾患

569件

病院外心停止

264件

重症脳血管障害

125件

急性中毒

159件

24時間365日、救急医が常駐している救急科を目指しています。
将来的には救命救急センター取得も視野に入れております。
このビジョンのもと、共に診療科を引っ張っていただける医師を求めています。

救急科が対応する症例数

- ▶ 自分が望んだだけ、症例数を経験できる教育環境 幅広い重症患者に対応し経験することが可能です。



CPA
(心肺機能停止)

264件/年



ショック

約 **130**件/年



重症呼吸不全

約 **150**件/年



外科的気道確保

約 **5**件/年

救急科プログラム（3-5年目/6年目以降～）

医師 3年目	医師 4年目	医師 5年目	医師 6年目以降						
一宮西病院	<table border="1"> <tr> <td>ER 1ヶ月</td> <td>ICU5ヶ月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">藤田医科大学病院</td> </tr> <tr> <td colspan="2">掖済会病院 ER・ICU</td> </tr> </table>	ER 1ヶ月	ICU5ヶ月	藤田医科大学病院		掖済会病院 ER・ICU		一宮西病院	専門分野 研修
ER 1ヶ月	ICU5ヶ月								
藤田医科大学病院									
掖済会病院 ER・ICU									

専攻医の卒後3年目は、一宮西病院で研修を行います。

卒後4年目前半もしくは後半の半年間で、藤田医科大学病院もしくは名古屋掖済会病院での研修を行っていただきます。

藤田医科大学病院では、1ヶ月間のER研修・5ヶ月間のICU研修を行います。

名古屋掖済会病院では、高速道路や主幹道路に囲まれた工業地域に立地していることから、労働災害、交通事故などの外傷患者を多く経験することができます。

藤田医科大学病院



藤田医科大学病院について

- 先進的な取組を積極的に取り入れている。
 - ・高度救命救急センター「ECMOカー×ドクターカー」のW体制
 - ・遠隔によるロボット手術「hinotori™」
 - ・様々なメーカーとの協業。自動PCR検査システム（川崎重工）、調剤ロボット（ユヤマ）

研修プログラムの特徴

研修プログラムが目指すのは、どんな患者さんでも逃げずに幅広く診られる能力を備えた医師を育成すること。各診療科の専門医へのつなぎ役を果たすだけでなく、一定レベル以上のマネジメントを自ら行い、内科領域の深い知識を持ちながら、診断から治療、その後の療養に至るあらゆるフェーズに幅広く対応できるジェネラリストを養成しています。

概要

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

名古屋掖済会病院



名古屋掖済会病院について

-名古屋掖済会病院の特長といえば「断らない救急」。
昭和53年に東海地区初の救命救急センターとして認可を受け「救急車を断らない」を合言葉に、一次、二次、三次のあらゆる急患を24時間365日受け入れています。

研修プログラムの特徴

2020年12月からCTと血管撮影装置（Angio）を組み合わせたハイブリッドERが稼働。重症外傷、脳梗塞で血栓回収療法が必要な場合、心肺停止で経皮的な心肺補助（PCPS）が必要とされるケース活躍している。
目標は、“誰からも必要とされる救急医”「診療能力」と「コミュニケーション能力」の両方を教育します。

態度

[ATTITUDE]

技能

[SKILL]

知識

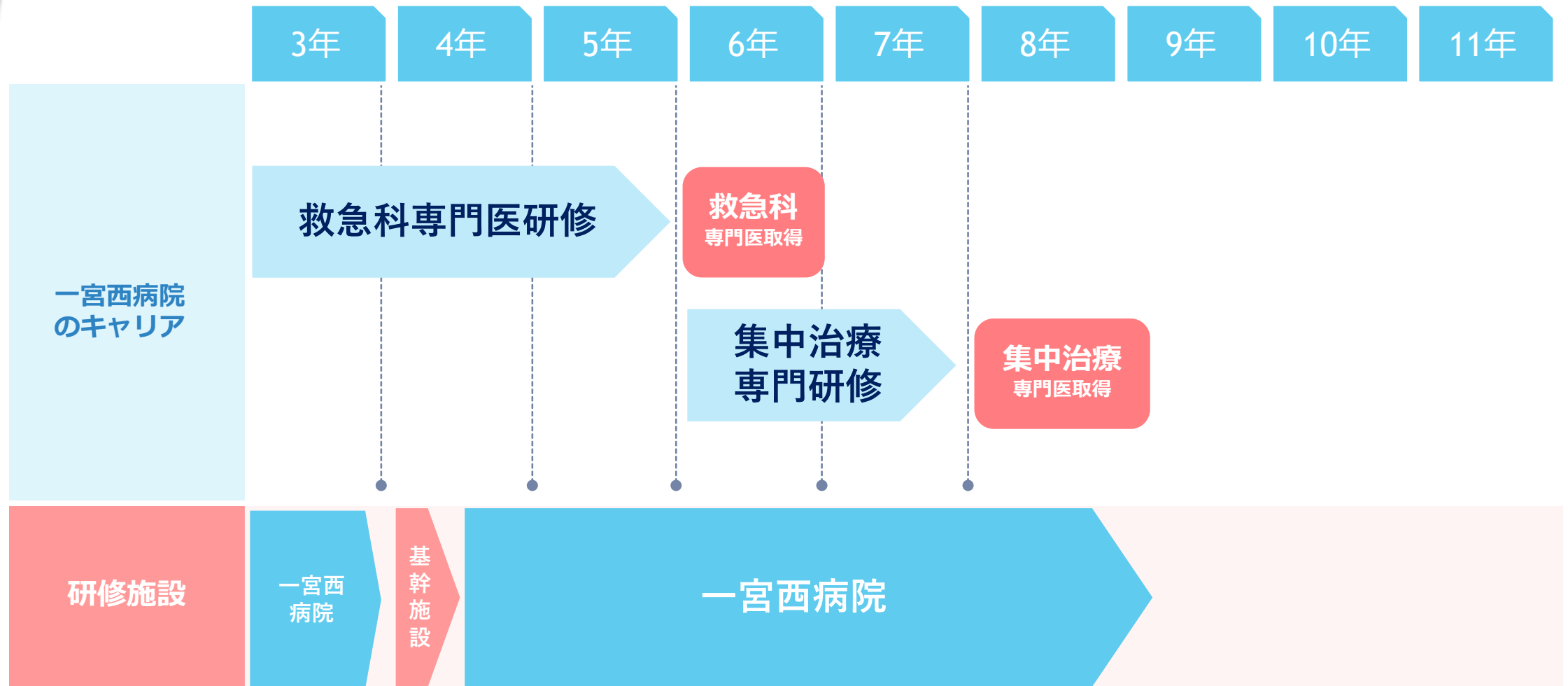
[KNOWLEDGE]

+

エキサイ / [EKISAI]

概要

〒454-8502 愛知県名古屋市中川区松年町4-66



- ✓ 救急科専門研修期間の3年間のうち半年間は藤田医科大学病院もしくは名古屋掖済会病院での研修
- ✓ 救急科専門医を取得後は、当院麻酔科にて集中治療専門医取得も目指せます
- ✓ 将来 救命救急センターの立ち上げにも携わっていただきます

救急科医としての到達目標

左図の救急科専門医診療実績表の経験すべき症例、手技のほとんどは当院で研修可能です。

ICU重症管理、外科的手技については4年目の基幹病院研修でも習得できます。

A 症候	B 病態	C 手技
a	a	a
① 心停止（蘇生チームリーダー・MC体制下の指示）	① 頭蓋内圧亢進	① 気管挿管
② 心停止（緊急薬剤投与）	② 急性呼吸促拍症候群	② 電気ショック（同期・非同期）
③ 心停止（心拍再開後の集中治療管理）	③ 急性心不全	③ 胸腔ドレーン挿入
	④ 急性肝障害、急性肝不全	④ 中心静脈カテーテル挿入
	⑤ 急性腎障害	⑤ 動脈穿刺、観血的動脈圧測定、動脈シース挿入
	⑥ 敗血症	⑥ 超音波検査（FAST 含む）
	⑦ 多臓器不全	⑦ 胃管の挿入、胃洗浄
	⑧ 電解質・酸塩基平衡異常	⑧ 腰椎穿刺
	⑨ 凝固・線溶系異常	⑨ 創傷処置（汚染創の処置）
	⑩ 救急・集中治療領域の感染症	⑩ 骨折整復・固定
b		⑪ 気管支鏡検査
① ショック		⑫ 人工呼吸管理
	b	⑬ 急性血液浄化法
	① 頭部外傷	⑭ 重症患者の栄養管理
	② 脊椎・脊髄損傷	⑮ 重症患者の鎮痛・鎮静管理
	③ 顔面・頸部外傷	
	④ 胸部外傷	b
	⑤ 腹部外傷	① 気管切開
	⑥ 骨盤外傷	② 輪状甲状靭帯穿刺・切開
	⑦ 四肢外傷	③ 緊急ペーシング
	⑧ 多発外傷	④ 心嚢穿刺・心嚢閉塞術
	⑨ 重症熱傷・気道熱傷・化学損傷・電撃傷	⑤ 蘇生の開胸術
	⑩ 急性中毒	⑥ 肺動脈カテーテル挿入
	⑪ 環境障害（熱中症・低体温症・気圧障害等）・溺水	⑦ IABP挿入・実施
	⑫ 異物（気道異物、消化管異物等）	⑧ ECMO導入・実施
	⑬ 刺咬症	⑨ 大動脈遮断用バルーンカテーテル挿入
	⑭ アナフィラキシー	⑩ 消化管内視鏡検査
		⑪ イレウス管の挿入
	c	⑫ SBチューブ挿入
① 意識障害	① 小児科領域の救急患者	⑬ 腹腔穿刺・腹腔洗浄
② 失神	② 精神科領域の救急患者	⑭ 頭蓋内圧測定
③ めまい	③ 産婦人科領域の救急患者	⑮ 腹腔（膀胱）内圧測定
④ 頭痛	④ 泌尿器科領域の救急患者	⑯ 筋区画内圧測定
⑤ 痙攣	⑤ 眼科領域の救急患者	⑰ 減張切開
⑥ 運動麻痺、感覚消失・鈍麻	⑥ 耳鼻咽喉科領域の救急患者	⑱ 緊急IVR
⑦ 胸痛		⑲ 全身麻酔
⑧ 動悸（不整脈を含む）		⑳ 脳死判定
⑨ 高血圧緊急症		
⑩ 呼吸困難		
⑪ 咳・痰・咯血		
⑫ 吐血・下血		
⑬ 腹痛（急性腹症）		
⑭ 悪心・嘔吐		
⑮ 下痢		
⑯ 腰痛・背部痛		
⑰ 乏尿・無尿		
⑱ 発熱・高体温		
⑲ 倦怠感・脱力感		
⑳ 異常な皮膚所見		
㉑ 精神症候		

専門医取得可能資格一覧

資格名	施設基準 (一宮西病院)	備考
救急科専門医	○	最短6年目に取得可能。

新専門医制度におけるダブルボード（内科、総合診療科、外科、整形外科、麻酔科、小児科、脳神経外科、精神科）の専門医も取得できます

サブスペシャリティ領域（日本専門医機構の規定に従う）

資格名	備考
集中治療専門医	当院集中治療科にて取得可能。
消化器内視鏡専門医	当院にて取得可能。
脳卒中専門医	当院にて取得可能。
感染症専門医	当院にて取得可能。基本領域と合わせて6年以上の経験

人員体制

医師人数

医師名 **5** 名 : 専門医数 **3** 名 : 後期研修医数 **2** 名

指導医・専門医・認定医

救急科専門医	7 名 (院内全体)	JATECインストラクター	1 名
麻酔科専門医・指導医	1 名 :	ACLSインストラクター	1 名
集中治療専門医	1 名 :	日本DMAT隊員医	2 名
ペインクリニック専門医	1 名 :	統括DMAT隊員医	2 名
内科総合内科専門医	1 名 :		

カンファレンス 勉強会の実施

※救急搬送の状況を見て不定期に開催

- 上級医が過去に経験した症例を共有し学ぶ機会を得られます
- 症例に応じ、適宜カンファレンスを行っています



救急科専門医を目指すあなたへ

当院は救命救急センターではありませんが、救急車応需台数1万台/年を超える規模の病院です。

現在は、救急科は救急外来での診断と初療を行い院内各診療科が引き続き治療を行うという体制で診療を行っています。

救急科専門医に**求められる資質として、急性疾患の診断能力と共に、緊急性の高い状態の患者の状態を安定化させ生命維持を行うCritical careの能力が必須**だと考えています。Critical careのスキルを獲得した上で希望するのであればサブスペシャリティの道に進むのがよいと思います。

そこで当院では**救急科研修の一環で当院のICUで研修することにより集中治療が習得できるプログラム**を用意しています。

将来的に集中治療のスキルを持ったスタッフが増えれば**救急科でICUを持つ**ことも視野に入れていきます。

救急医療は地域社会の安全保障でもあります。当院の救急部門が発展することは地域の方々がより安心して生活できる背景ともなります。皆さんの**若い力で当院の救急部門をより大きく**していきましょう。



一宮西病院の救急科としてスタートすること

救急科を専攻するといったことにどのような志をお持ちでしょうか。重症患者を蘇生すること、多数の患者を同時にマネジメントすること、勿論そういった急性期診療に従事できることはやりがいがあります。しかし、**診療現場において救急科としての活躍範囲はより多岐にわたります**。他科外来で発生した重症患者の初期対応、専門診療科振り分け前のトリアージ、社会的問題を抱える患者へ多職種連携での対応など、いわゆる院内トラブルの解決も重要な職務の一つです。

また同時に当院では毎日約30台以上、年間約10000台以上かつ多発外傷や重症血管障害など、**3次救急的対応を求められる患者が多数搬送されてきます**。この高水準で高負荷な現場を各科専門上級医、コメディカル、研修医と円滑にコミュニケーションを取りつつマネジメントする臨床能力の獲得を目指すことができます。幸い**当院の各科専門医の先生方は救急外来診療に非常に協力的な方ばかりですので、各専門領域について日々ご指導いただけます**。個人的にはこの各科協力がここまで醸造されている病院は珍しいのではないかと考えています。

当然、救急科としての専門性もトレーニングできます。特に当院は系列精神科病院を持ちますので、そのかかりつけ患者の**精神救急や薬物中毒を日常的に診療します**。重症ICU管理についても基幹病院としての藤田医科大学や名古屋掖済会病院での外部研修だけでなく**当院ICUへの院内研修も可能**です。自分の思い描く将来像について事務的なところでも強力なバックアップをもらえます。

初期研修を終えて、「**プロのなんでも屋**」として一緒に頑張ってくれる仲間を募集中です。ぜひまずは見学をお待ちしています。



専攻医の1日

朝礼



8 : 45

回診



12 : 00

ER/ウォークイン対応



17 : 00

帰宅

8 : 30



ER

10 : 00



ランチ

13 : 00



振り返りカンファ

18 : 00

救急科1週間スケジュール

※毎日17時より症例振り返りカンファレンスの実施

時間帯		月	火	水	木	金
午前	8:30~ 12:00	救急車対応	救急車対応	救急車対応	救急車対応	救急車対応
午後	13:00~ 17:00	ウォークイン 救急車対応	ウォークイン 救急車対応	ウォークイン 救急車対応	ウォークイン 救急車対応	ウォークイン 救急車対応
夕刻	17:00~ 18:00	症例振り返り カンファレンス	症例振り返り カンファレンス	症例振り返り カンファレンス	症例振り返り カンファレンス	症例振り返り カンファレンス